

平成 25 年度介護等体験談
特別支援学校<堺聴覚支援学校>

私が実習に行く前は、耳が聞こえない子ども達とどのようにしてコミュニケーションをとるのか、また私は、普段塾の講師として中学生とは多く関わりがあったものの、小学生とは関わる機会がほとんどなかったため、不安が多くあった。

しかし、初日に教頭先生から聞いた話では、全く聞こえない生徒はほとんどおらず、多くの生徒は大きな声で話せば、コミュニケーションが取れるということであった。そのため、子ども達と関わることへの不安も減り、落ち着いて子ども達と関わることができた。

初日は、子ども達と顔を初めて会わせたため、最初はあまりこちらに寄ってきてくれなかったが、こちらから積極的に話しかけたり、遊んだりしているうちにどんどん距離が縮んでいくのか分かった。子供たちも普通に話しかけてくれるようになり、最初不安に思っていたコミュニケーションができないということは、全くなかった。

子ども達は、手話と話し言葉の両方を併用してコミュニケーションをとっていたため、子ども達同士の会話は、分からないことが多かった。そのため、もし、実際に働くということになれば、手話を勉強することも必要だと実感させられた。

また、聴能や発音など、普通の学校には存在しない特別支援学校特有の授業を受けさせていただき、聴覚障がいというものを勉強させていただいた。普段は、なかなか関わる機会がないので、貴重な経験で驚くことが多くあった。

そして、最後に思ったのが、自分はまだまだ無知であるということであった。これからも、障がいや、支援教育について学び続け、現場に出る時にしっかりと知識を持っている状態になりたいと思う。

以上